PLAN					DO					CHECK			ACTION						
戦略	要旨	方向性	重点事業	事業の概要	数値目標・KPI			実施状況等 (R1)	地方創生関係交付金	数値目標・KPIの推移					担当課評価		審議会評価		町評価
					指標	基準値	目標値			H28	H29	H30	R1	R2	評価	評価理由	今後の方針	評価	意見等
戦略1 大磯への新しいひとの流れをつくる	<p>◆交流人口拡大を基点とした大磯定住への布石</p> <p>都心に近接しながら豊かな自然環境や湘南発祥の地としての歴史的・文化的に魅力ある地域資源に恵まれている大磯町は、交流人口を拡大させ、新たなひとの流れを生み出す可能性を備えています。町の地域資源を最大限活用し、町外へ発信することで、大磯に憧れ、訪れたい、活気に満ち溢れた地域を創出します。また、県の新たな観光の核づくりプロジェクトと連携しながら、大磯の魅力に浸透させ、来訪者、移住希望者に選ばれたいをめざします。</p>	<p>■大磯を訪れたい交流人口の増加</p> <p>■地域経済の活性化を促進する交流拠点の整備</p> <p>■多様な来訪者の交流を広げるネットワークの構築</p>	数値目標		入込観光客数	85.8万人 (H26)	100万人以上			86.0万人	91.7万人	110.2万人	97.9万人						
			事業1	地域資源を生かした観光の振興	<p>◆「交流」「自然」「食」「文化」を楽しむ体験型プログラムの創出</p> <p>◆観光環境の整備と地域に対する愛着や誇りの心の涵養</p>	民間団体による観光関連事業数	30回 (H27)	45回以上	<p>・観光サイン・観光マップ整備事業</p> <p>・旧東海道松並木（大磯高麗1号線）整備事業</p> <p>・（仮称）西久保休憩施設整備事業</p>	① ⑤	39回	45回	49回	44回	B	夏季の天候不良（台風等）や社会情勢（コロナ禍）による開催中止があったため数値は昨年度より減少している。	町内の観光の核をフックにしたイベント開催に向けて民間団体等と連携を図る。	<p>Ⅰ</p> <p>Ⅱ 【評価理由】 ○KPIは目標を超えている事業もあるが、今後の方向性について、事業を今の時勢に対応させていく必要がある。</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅳ 【委員意見】 ※ 別紙参照</p> <p>Ⅴ</p>	<p>◆事業1から事業3について、KPIの推移はわずかに減少傾向にあるが、令和2年度に、商工会、観光協会のほか、31団体で構成する「大磯らしい潤いづくり協議会」を設立し、協議会と民間事業者との間で「大磯らしい潤いづくり事業に関する協定」を締結した。令和3年度からスタートする「大磯らしい潤いづくり計画」において、観光における新たなステップとして、本町に元気と活力を生み出すため、「食べる」、「買う」、「泊まる」といった視点で、消費行動へつなぐ「機会」や「場」を提供し、地域経済循環の向上を図る取組みを進め、大磯らしい潤いを創出する。</p> <p>◆町の魅力を発信できる施設となる明治記念大磯邸園も整備が進められているため、既存施設と相互に連携を図りながら相乗効果が得られるよう事業を推進していく。</p>
			事業2	大磯港みなどオアシス事業による交流の促進	<p>◆みなどを通年で集い楽しむ仕組みづくりの推進</p>	大磯港県営駐車場利用台数	73,863台 (H27)	81,000台以上	・大磯港みなどオアシス推進事業	-	87,285台	97,300台	100,007台	88,577台	B	当初の目標を達成しているが、昨年度からは数値が減少しており、駐車場利用者の減少は夏季の天候不良によるものと考えられる。	冬場の大磯港来場者数が少ないため、魅力あるイベントの開催を検討し、冬場の来場者数の増加に努める。		
			事業3	自転車ネットワークの整備	<p>◆広域的自転車ネットワークの環境整備</p> <p>◆来訪者の回遊性向上を生み出す仕組みづくり</p>	ポートハウスてるがさき利用者数	18,566人 (H27)	20,000人以上	・大磯駅周辺安全安心・にぎわい創出事業 <p>・観光サイン・観光マップ整備事業</p>	② ⑤	26,395人	31,785人	34,129人	27,950人	B	夏季の天候不良（台風等）により数値は低下しているが、指定管理者によるプール開設期間の延長、物販の実施などの自主事業など、利用の促進が図られている。	事業実績を確認しながら、指定管理者と協議を行い、ニーズに合った事業の展開で集客に努める。		

<p>地方創生関係交付金</p> <p>◆【H27】地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）</p> <p>① - 邸園文化交流事業（活動団体への補助）</p> <p>② - 海浜・港湾エリアの特長を活かした地域活性化事業（レンタサイクル事業）</p> <p>③ - 中学校給食実施事業（一時保管施設整備、給食実施）</p> <p>④ - 子ども・子育て支援事業（保育士等の質向上支援、放課後子ども体験学習、幼保ふれあい交流、集団生活サポート、子ども発達相談）</p> <p>◆【H28】地方創生加速化交付金</p> <p>⑤ - 近現代の歴史舞台からの地域づくり事業（吉田茂展開催、ブランドメッセージ・大磯暮らし制作、自転車ルート整備）</p>
--

<p>担当課評価</p> <p>A - 順調に推移</p> <p>B - 一定の進捗がある</p> <p>C - 進捗は遅れている</p> <p>D - 進捗は大幅に遅れている</p>
--

<p>審議会評価</p> <p>I - 重点事業が順調に進捗しており、事業の効果が認められるため、重点事業を継続して実施する。 【重点事業の実施により、数値目標・KPIともに順調に推移している】</p> <p>II - 概ね重点事業が順調に進捗しているが、一部の事業を改善する必要がある。 【重点事業の実施により、数値目標・KPIともに概ね順調に推移しているが、一部のKPIの進捗が遅れている】</p> <p>III - 重点事業を実施したものの、十分な成果が得られておらず、一部の事業を見直す必要がある。 【重点事業は実施されているが、数値目標・KPIともに進捗が遅れている】</p> <p>IV - 重点事業のさらなる推進が必要である。 【重点事業の進捗が遅れている】</p> <p>V - 達成状況を検証する数値目標を見直す必要がある。 【数値目標とKPIの関連性が低いなど、重点事業の進捗状況を適切に判断できない】</p>

PLAN				DO					CHECK				ACTION																																																																																																																																																																																																																		
戦略	要旨	方向性	重点事業	事業の概要	数値目標・KPI			実施状況等 (R1)	地方創生関係交付金	数値目標・KPIの推移					担当課評価		審議会評価		町評価 今後の方向性																																																																																																																																																																																																												
					指標	基準値	目標値			H28	H29	H30	R1	R2	評価	評価理由	今後の方針	評価		意見等																																																																																																																																																																																																											
戦略2 大磯で若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	◆若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶え、若い世代に選ばれるまちづくりの推進 若い世代の結婚や出産に対する価値観の変化や雇用形態の変革等により、少子化、晩婚化などの社会問題が発生しています。安心して結婚・出産・子育てができる環境を整備するとともに、しごとと子育ての調和が実現する子育て支援サービスの充実 ■安心して子どもを産み育てやすい環境の実現 ■しごとと子育ての調和を実現する子育て支援サービスの充実 ■心豊かに成長できる子どもたちの育成 ■社会で活躍できる子どもたちの育成	数値目標 0歳～14歳の人口割合 12.2% (H26) 12.2%以上	0歳～14歳の人口割合 12.2% (H26) 12.2%以上	11.3% 11.3% 11.1% 11.1%	11.3% 11.3% 11.1% 11.1%	11.1% 11.1% 11.1% 11.1%	11.1% 11.1% 11.1% 11.1%																																																																																																																																																																																																																								

PLAN					DO					CHECK			ACTION							
戦略	要旨	方向性	重点事業	事業の概要	数値目標・KPI			実施状況等 (R1)	地方創生関係交付金	数値目標・KPIの推移					担当課評価		審議会評価		町評価	
					指標	基準値	目標値			H28	H29	H30	R1	R2	評価	評価理由	今後の方針	評価	意見等	今後の方向性
戦略3 大磯にしごとをつくり安心して働けるようにする	<p>◆持続可能な産業基盤と安定した雇用環境の構築</p> <p>社会経済情勢や多様化する消費者ニーズ等により、地域の産業と雇用状況は大きく変化しています。地域経済に活力をもたらすため、持続可能な産業基盤を確立させるため、新たな産業を創出し、「しごと」を生み出すことで、新たな雇用を促進し、財政基盤が安定したまちづくりをめざします。また、就業機会の拡大により、若い世代を引き付け、安心して大磯で働ける環境整備と大磯で働くことを希望する意欲を高めます。</p>	<p>■新たな地域産業の育成に伴う地域経済の活性化</p> <p>■安定した雇用の確保による地域経済の活性化</p> <p>■環境負荷の少ない持続可能な社会の創生</p>	数値目標		昼夜間人口比率	77.4% (H22)	80.0%以上			79.1% (H27)	次回調査予定は、R2国勢調査									
			事業1	地域産業ビジネスに対する創業支援の充実	◆地域の資源や人材が持つノウハウを生かした産業創出への支援	町内事業所数	1,192か所 (H27)	1,250か所以上	(認定要件に該当する事業なし)	-	1,139か所	1,066か所	1,066か所	1,066か所	C	商工会及び金融機関との4者連携協定に基づき、商品開発などの取組みを実施したが、後継者不足などにより、昨年度と同数である。	町内商工業者の金融対策支援を利用する事業者が増加してきており、引き続き商工会や金融機関と連携し、制度融資及び支援メニュー等の周知・充実を図る。	I	【評価理由】 ○KPIが目標値を達成している事業もあり、新規就農者数の伸びは評価できるが、進捗が遅れている事業もある。 【委員意見】 ※ 別紙参照	◆事業1については、支援対策の積極的な活用が図られるように、事業者のニーズに応えられるよう、制度を充実させるなど、商工業者の持続可能な発展を支援していく。また、新たに創業者を支援することを目的とした支援制度を新設する。 ◆事業2については、農業者の高齢化や担い手不足、耕作放棄地の増加といった課題を解消すべく、認定農業者の確保と、さらなる経営安定に向けた支援を行うため、「農業経営基盤強化補助制度」を新設する。また、農地の有効活用と地域農業の活性化に向け、虫窪地区と西小磯地区において「人・農地プラン」の作成を進めるとともに、引き続き新規就農希望者への就農相談や農地のあっ旋、仲介を行い、農地活用を推進していく。 ◆事業3については、KPIは横ばいの状況にあるため、ごみ排出量の削減に向けて啓発活動を推進するとともに、食品ロス削減に着目し、今後改定する環境基本計画の中で方策を検討していく。また、省エネルギー、再生可能エネルギー活用促進については、国が2050年に脱炭素社会の実現を宣言し、政策の変動が激しいことから、現行の補助制度を継続しつつ国の動向を注視して対応していく。
			事業2	地域雇用の場の整備と担い手の育成	◆地域雇用の場の創出 ◆担い手となる新規就業者、後継者への育成支援	空き家利活用実績の件数	0件 (H27)	5件以上	・自伐型林業等推進事業	-	0件	2件	4件 (+2件)	6件 (+2件)	A	活用件数については昨年度と同数であるが、活用希望の問合せ件数については昨年度より増加傾向にあり、目標値を登録件数が上回った。	空き家バンクの運用を開始し、防災行政アプリでも制度周知を行う。利活用実績を広報記事として掲載する等周知を図る。			
						認定農業者数	27人 (H27)	30人以上		-	26人	17人	17人	17人	C	高齢化による更新を断念する農業者があったが、新規で認定を受ける農業者がいたため、数値に変化がなかった。	更新への誘導強化に努める。また、新規で認定を受ける農業者の発掘を行う。			
						年間新規就農者数	2件 (H27)	4件以上		-	2件 (+2件)	5件 (+3件)	7件 (+2件)	10件 (+3件)	A	神奈川農業アカデミーと連携して新規就農希望者の紹介を受けたり、新規就農希望者に農地のマッチングがスムーズに行えたため、新規就農者が増加した。	引き続き、新規就農者の就農相談を丁寧に行い、新規就農者数の増加をめざす。			
						新規就漁者数	0人 (H27)	3人以上		-	0人	0人	5人 (+5件)	7人 (+2件)	A	漁業協同組合と連携し、PRや支援策の情報提供を行い、目標値を達成し、維持している。	引き続き、就漁者の支援について漁協と連携を図っていく。			
						【補助指標】年間漁獲量	294t (H27)	350t以上		-	267t	507t	495t	376t	A					
						町民一人1日当たりのごみ排出量	895g (H26)	882g以下		(認定要件に該当する事業なし)	-	959g	954g	939g	952g	C	ごみ減量に向けた普及啓発活動により、減量化の取組みの認知度が向上しており、直近5か年において1人あたりの排出量は減少傾向にある(平成25年以降: 982g、895g、959g、954g、939g)が、台風等による海岸ごみが増えたことなどにより、近年は一時的な増加が見られる。			
			事業3	持続可能な社会に向けた事業の推進	◆3R (リデュース・リユース・リサイクル)の推進 ◆省エネルギー、再生可能エネルギーの利活用の推進やエコビジネスの創出に向けた支援	スマートエネルギー設備補助件数累計	23件 (H26)	170件以上	-	52件 (+9件)	64件 (+12件)	72件 (+8件)	83件 (+11件)	C	目標設定時に比べ、国や県の優遇施策が終了したことや、太陽光発電の電力の買取価格、導入費用共に安価になり人気落ち着いたことがあり、目標値に比べ低い値で推移している。年度により補助件数に増減はみられるが、申請や問合せは一定数ある。	スマートエネルギー設置導入補助制度の促進を図りつつ、国、県及び他の自治体の動向を注視し、補助制度の在り方を検討していく。				

地方創生関係交付金

◆【H27】地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地方創生先行型)

- ① ー 邸園文化交流事業(活動団体への補助)
- ② ー 海浜・港湾エリアの特長を活かした地域活性化事業(レンタサイクル事業)
- ③ ー 中学校給食実施事業(一時保管施設整備、給食実施)
- ④ ー 子ども・子育て支援事業(保育士等の質向上支援、放課後子ども体験学習、幼保ふれあい交流、集団生活サポート、子ども発達相談)

◆【H28】地方創生加速化交付金

- ⑤ ー 近現代の歴史舞台からの地域づくり事業(吉田茂展開催、ブランドメッセージ・大磯暮らし制作、自転車ルート整備)

担当課評価

A ー 順調に推移
B ー 一定の進捗がある
C ー 進捗は遅れている
D ー 進捗は大幅に遅れている

審議会評価

I ー 重点事業が順調に進捗しており、事業の効果が認められるため、重点事業を継続して実施する。
【重点事業の実施により、数値目標・KPIともに順調に推移している】

II ー 概ね重点事業が順調に進捗しているが、一部の事業を改善する必要がある。
【重点事業の実施により、数値目標・KPIともに概ね順調に推移しているが、一部のKPIの進捗が遅れている】

III ー 重点事業を実施したものの、十分な成果が得られておらず、一部の事業を見直す必要がある。
【重点事業は実施されているが、数値目標・KPIともに進捗が遅れている】

IV ー 重点事業のさらなる推進が必要である。
【重点事業の進捗が遅れている】

V ー 達成状況を検証する数値目標を見直す必要がある。
【数値目標とKPIの関連性が低いなど、重点事業の進捗状況を適切に判断できない】

PLAN					DO					CHECK					ACTION								
戦略	要旨	方向性	重点事業	事業の概要	数値目標・KPI			実施状況等 (R1)	地方創生関係交付金	数値目標・KPIの推移					担当課評価			審議会評価		町評価			
					指標	基準値	目標値			H28	H29	H30	R1	R2	評価	評価理由	今後の方針	評価	意見等	今後の方向性			
戦略4 大磯の地域が連携しあい安全・安心なくらしをつくる	◆地域の連携を強く結ぶコミュニティの創生と安全・安心なくらしの実現 核家族化や高齢化の進行等により、地域のコミュニティが衰退し、地域社会での人のつながりが希薄化しています。住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らせるように、多世代が連携した新たな地域コミュニティを創出し、いきいきと活躍できるまちづくりをめざします。また、安全・安心に暮らせる社会を作るため、地域と地域のつながりを強くする社会基盤を確立します。	■地域のコミュニティを再構築し誰もがいきいきと暮らせる社会の創生 ■健やかに安心して生活できるくらしの実現 ■地域全体で取り組む安全・安心なまちづくりの推進 ■誰もが安心して快適に暮らせる生活環境の実現	数値目標		住み続けたい人の割合	81.8% (H26)	88.0%																
			事業1	多世代による新たなコミュニティの創生	◆地域で暮らす人のつながりを生かしたコミュニティビジネスの創出 ◆地域主体のまちづくり活動の促進	町民活動団体数 (NPO登録団体数)	22団体 (H27)	30団体			23団体	24団体	24団体	19団体		C	団体数は前年度と比較し減少傾向にあるが、HPを中心に町民活動に関する情報提供を行い、一定の成果はある。	町民活動の拠点場所を整理し、町民活動情報の提供を推進する。					
						町民活動推進補助金申請数	6件 (H27) ※1件辞退	10件			5件	7件	5件	4件		C	前年度と比べると総数では減少しているが、評価委員会にて、募集方法、内容等を検討し、補助金要綱の改正を行った。	新たな要綱のもと、補助金団体の活動を推進する。					
			事業2	健康なくらしのサポートの充実	◆地域全体でライフステージに適した健康づくりの推進 ◆地域医療、救急医療体制の確保	アンチロコモティブシンドロームの予防行動実施率 (60~7歳)	25.2% (H26)	50.0%	(認定要件に該当する事業なし)		37.8%					B	ロコモティブシンドロームの要素を内包するフレイル(虚弱化)予防について、おあしす24健康おおいぞ、介護予防事業等に取り入れており、引き続き実施している。	これまでの実績をもとに「老化度測定」や「フレイル予防事業」を実施し、フレイル予防を推進する。					
			事業3	地域防災体制の強化	◆消防団を中核とした地域防災力の向上 ◆自助、共助による地域防災活動への取組の推進	消防団員充足率	96.0% (H27)	100.0%	・消防車両更新事業(常備)		95.0%	96.7%	91.3%	89.1%		C	団員数は減少傾向にあるが、女性を含めた団員募集を行うとともに、消防団の活動状況を広報紙に掲載し団員募集を行った。	今後もイベントや広報等を活用した団員募集や、各地区長への募集依頼など積極的な募集を行う。					
						防災訓練参加率	57.0% (H27)	80.0%			67.0%	70.0%	76.0%	80.2%		B	安否確認訓練を継続的に実施することで、訓練参加率が毎年増加している。	全対象世帯に安否確認できるよう訓練の住民周知の徹底を図るとともに、訓練を継続していく。					
			事業4	生活環境の改善整備	◆地域公共交通機関の利便性向上の推進 ◆水質保全に向けた生活排水対策の推進	交通空白地域の解消 (か所数)	0か所 (H27)	2か所	・大磯駅周辺安全安心・にぎわい創出事業 ・公共下水道整備事業 ・公共下水道維持管理事業		1か所	1か所	1か所	1か所		B	西小磯東地区の一部地域に乗合タクシーを運行し、利用者及び利便性ともに前年同等を維持している。	富士見地区の乗合バスの運用を検討する。意向調査等を実施し、利便性の向上を図る。また、新たな地域公共交通を検討する。					
						町内8河川の平均BOD値	3.8mg/l (H26)	3.2mg/l			3.6mg/l	3.5mg/l	3.2mg/l	3.1mg/l		A	環境基準におけるC域 (5mg/l) 内で安定して推移し、目標を達成している。	前年度同様、調査を行っていくとともに合併処理浄化槽への転換や下水道への接続替えに向けて普及啓発を行う。					

地方創生関係交付金
 ◆【H27】地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）
 ① ー 邸園文化交流事業（活動団体への補助）
 ② ー 海浜・港湾エリアの特長を活かした地域活性化事業（レンタサイクル事業）
 ③ ー 中学校給食実施事業（一時保管施設整備、給食実施）
 ④ ー 子ども・子育て支援事業（保育士等の賃上支援、放課後子ども体験学習、幼保ふれあい交流、集団生活サポート、子ども発達相談）
 ◆【H28】地方創生加速化交付金
 ⑤ ー 近現代の歴史舞台からの地域づくり事業（吉田茂展開催、ブランドメッセージ・大磯暮らし制作、自転車ルート整備）

担当課評価
 A ー 順調に推移
 B ー 一定の進捗がある
 C ー 進捗は遅れている
 D ー 進捗は大幅に遅れている

審議会評価
 I ー 重点事業が順調に進捗しており、事業の効果が認められるため、重点事業を継続して実施する。
 【重点事業の実施により、数値目標・KPIともに順調に推移している】
 II ー 概ね重点事業が順調に進捗しているが、一部の事業を改善する必要がある。
 【重点事業の実施により、数値目標・KPIともに概ね順調に推移しているが、一部のKPIの進捗が遅れている】
 III ー 重点事業を実施したものの、十分な成果が得られておらず、一部の事業を見直す必要がある。
 【重点事業は実施されているが、数値目標・KPIともに進捗が遅れている】
 IV ー 重点事業のさらなる推進が必要である。
 【重点事業の進捗が遅れている】
 V ー 達成状況を検証する数値目標を見直す必要がある。
 【数値目標とKPIの関連性が低いなど、重点事業の進捗状況を適切に判断できない】